



ひな祭りが済んでまたそれほどの月日が過ぎたわけではないが、五月ともなれば早くも夏のおいを感ずるようになる。

わが家では五月には、ひな人形ほどの数はないが古くから伝わる五月人形を文化財指定の家屋と一緒に公開している。

数年前、わが家に伝来するよろいについて一騒ぎあった。そのよろいが手元にある由来については定かでないのだが、大変見栄えがよいので端午の節句公開では奥座敷の床の間に展示していた。しかし大変古いものがあり、次第に傷みがひどくなつたので最近展示せず蔵の中に収納したままであった。

たまたま隣の天領資料館に日田ゆかりの幕末の勘定奉行川路聖謨（せいご）のかぶとが展示され、その寄贈者が見学に来ち寄りついでに草野本家の見学に訪れた。

家内がよろいに詳しい方、と聞きつけ収納していたよろいを

一
テ
リ
の
ス
ミ
史
歴
秀
長



草野 義輔

聞きつけ収納していたよろいを修理をしてくれた甲冑師明珍（あきあき）家第二十五世宗恭氏は時代や様式からいって間違いないという。明珍氏は国宝のよろいなどの修復をしてきた当代一の甲冑師とのことである。

見てもらった。その日は豊臣の關係かな、という程度で終わつたが、その後修理の申し出があり、東京へ送って数カ月、ある夜興奮した声で電話があった。かぶとの裏をはがしてみたら、ころおれが張ってあり「秀長加（日田市昭利学園高校理事長）

（日田市昭利学園高校理事長）